

# 令和5年度 学校評価一覽

佐野市立北中学校

( )内は昨年度

目標	重点項目	主な具体策 (教師が何をするか)	評価指標 (それにより対象がどうなるか)	評価方法・評価基準	関連 アンケート等	肯定 回答	教職員による自己評価	学校評議員による学校関係者評価
自ら学び考える生徒へ知育V	①学習指導の工夫改善	●学習のめあての明確化と振り返りの実施、板書の工夫やICTの活用等により、分かる授業の展開に努める。	●学習に見通しを立てたり成就感を味わわせたりすることにより、生徒が主体的・意欲的に授業に臨んでいる。	●生徒・保護者対象アンケートの結果 →肯定的な回答が90%以上	生7No.2  保7No.1	92% (90%)  80% (81%)	◆明確な「めあて」のもと授業を進め、「まとめ」「振り返り」をすることが学習内容の定着につながっている。引き続き、生徒が主体的に取り組み、分かる授業づくりに努めたい。 ◆板書やワークシートの工夫や、タブレット端末等を活用することで、生徒がより主体的に学習に取り組むようになってきている。ICT機器の効果的な活用についてさらに工夫をしていきたい。	◆どの授業も「めあて」がしっかり示され、教科担当教員が明るい声で授業を展開していた。また、さまざまな教科でタブレット端末を活用して授業が行われていた。生徒の理解がより深まると感じた。今後も一層の工夫・活用をお願いしたい。 ◆家庭学習については本校の課題の一つに挙げられる。生徒自身が課題を見付け、その解決に向けて自ら取り組むようになることが大切。良い取組例を提示するなどして意欲を高められるよう、家庭と学校とが連携してほしい。
	②家庭学習の習慣化	●「家庭学習の手引き」や「あゆみノート」等を活用して、家庭学習の意義や方法を伝え、習慣化を図る。	●主体的に学ぼうとする意欲が高まり、生徒が家庭学習ノートを自主的に提出している。	●家庭学習ノートを提出している生徒の割合 →80%以上の生徒が提出	生7No.5  保7No.2	74% (74%) 48% (59%)	◆家庭学習の習慣化が学力向上につながるよう声掛けを続けてきた。毎日提出している生徒の割合は74%であったが、その内容については個人差が見られる。家庭学習に意欲的に取り組み学力向上が図れるよう、引き続き保護者の方と連携していきたい。	
素直な心で感謝できる生徒へ德育V	①良い習慣の定着	●全職員共通理解の下身に付けさせたい良い習慣(返事、挨拶、靴揃え、聞く態度、立腰、2分前着席等)について継続的に指導する。	●生徒が、返事、挨拶、靴揃え、聞く態度、立腰、2分前着席等を意識して生活している。	●生徒・保護者対象アンケートの結果 →肯定的な回答が90%以上	生7No.7  生7No.8  保7No.3	93% (92%) 94% (90%) 89% (90%)	◆生徒アンケートでは肯定的な回答が多く、日頃から良い習慣を意識しながら学校生活を送っていることがうかがえる。 ◆多くの方から、生徒の挨拶が素晴らしいというお誉めの言葉をいただいている。返事や授業開始・終了の挨拶については、引き続き力を入れていきたい。	◆教職員が登下校指導をする様子から、これまで以上に交通安全指導に力を入れていると感じている。新しく店舗ができた工事箇所があったりと、新たな危険箇所での交通事故の防止に向けて、今後も指導を継続してほしい。 ◆接触事故が起きたときに、生徒が学校へ連絡してほしいと相手に伝えることができたのは、これまでの指導が生きている。 ◆庭先で倒れている人に気付き、生徒たちがそれぞれ手分けして救急車の要請や誘導などを行い命を救ったと聞いた。北中生の心が育ち、正しい判断や行動ができようになっていることを感じる。
	②生命尊重・人権尊重を基盤とした教育実践	●交通事故防止のための指導の充実、不登校生徒への適切な支援、いじめの未然防止と早期発見・早期対応に努める。	●交通事故や不登校生徒が減少するとともにいじめは許さないという意識が生徒に浸透している。	●交通事故件数の増減 →前年度同期より減少  ●不登校生徒数の増減 →前年度同期より減少  ●生徒・保護者対象アンケートの結果 →肯定的な回答が90%以上	事故の増減  不登校生徒数の増減  生7No.10 保7No.4	4件 (4件)  43人 (27人)  92% (92%) 78% (83%)	◆交通ルールやマナーに関する注意喚起を繰り返し行うことで、交通安全意識を高めてきた。今後も継続していきたい。 ◆不登校生徒一人一人の状況に応じて相談を行い、学習面・進路面など様々な面で不利益にならないよう、学校と家庭、地域とがつながりをより深め、今後も支援を続けていきたい。 ◆今後も生命尊重人権旬間での取組や生活アンケート、教育相談等の機会を通して生徒に寄り添った支援を心掛け、より人権が尊重された学校づくりを目指していきたい。	
心身を鍛え健康な生徒へ体育V	①体力と運動技能の向上	●教科体育において敏捷性等を強化する運動を工夫するとともに、耐性を育む体育的行事の充実に努める。	●生徒が体育の授業に意欲的に取り組むとともに、三彘・唐沢縦走で完歩を目指そうとしている。	●生徒・保護者対象アンケートの結果 →肯定的な回答が90%以上 ●三彘・唐沢縦走で完歩した生徒の割合 →前年度より増加	生7No.14  保7No.5  完歩率	94% (94%) 86% (87%) 95.6% (93.2%)	◆新体力テストの結果を踏まえ、小中学校で連携して補強運動を行っている。今後も継続して実施し、体力向上を目指したい。 ◆三彘・唐沢縦走については、出発時刻や距離等を再検討したことが完歩率の向上につながったと考えられる。チェックポイントの時間についても見直しを図れ、より安全に実施することができた。	◆三彘・唐沢縦走は、出発時刻やルートの一部変更したことが健康安全面や完歩率につながっている。今後も保護者と連携し生徒の安全面の確保に努めつつ、更に教育効果のある活動となるようにしてほしい。 ◆1年生の「佐野学」では味噌まんじゅうやイモフライ、黒からあげやかき菜などの郷土食について、地域とのつながりや調理法などを学んできた。このような経験を活かし、保護者不在時や長期休業時などにおいても、自分で食事の用意をすることができるようになってほしい。
	②食育の推進	●栄養教諭等が全学級で食に関する指導を行い望ましい食習慣の育成に努める。	●生徒が成長期に必要な栄養を摂取することの大切さを理解するとともに、給食を残さず食べている。	●生徒・保護者対象アンケートの結果 →肯定的な回答が90%以上  ●給食(主菜・副菜)の1人当たりの残量 →前年度より減少	生7No.12  保7No.6  残量の増減(12月末時点)	86% (83%) 89% (91%) 15.0g (15.1g)	◆栄養教諭等による食育指導を通して、栄養バランスの指導を行ってきた。今後保護者向けの栄養指導の機会を設け、学校と家庭とが連携した食育の推進を目指していきたい。 ◆配膳時間や食事時間、おかわりの仕方等にクラス差が出ないように担任が交替して給食指導に当たるなど工夫を加え、指導の改善を図りたい。	
信頼される教職員	①一人一人の生徒に寄り添った指導と支援	●教育的愛情をもって生徒に接するとともに生徒の良さを見つけ、「三彘賞」「唐沢賞」を積極的に授与する。	●生徒が教職員に気軽に相談するとともに、一人一人を褒めて・伸ばすことにより生徒の自尊感情が高まっている。	●生徒対象アンケートの結果 →肯定的な回答が90%以上	生7No.16  生7No.17  生7No.18	85% (87%) 91% (91%) 85% (86%)	◆生徒アンケートでは、全ての項目が90%以上までに至っているわけではないが、担任との信頼関係は比較的高く、共感的な人間関係が育まれていると考えられる。今後も引き続き、信頼関係を深めていきたい。 ◆小さなことでも「三彘賞」「唐沢賞」として認め、励まし、表彰し、自尊感情の向上につなげていきたい。	◆他中学校の様子を見聞きした上で、特別支援学級への入級を含めて北中を選ぶという話をよく聞く。生徒と教員の関係がよく「北中は楽しそう」と感じてもらえている。 ◆生徒アンケートは肯定的な意見が前年度を上回っているのに対し保護者はそうではない。生徒が学校のことを話す機会が少なくなっているのではないかと心配している。学校Webで毎日生徒の様子を配信、各種たよりを「さくら連絡網」で配信することで確実に手元に届くようになったが、家庭において子どもと保護者の話題作りをする必要がある。
	②教職員の服従の厳正と保護者との連携	●職務に対する使命感と誇りを持ち、必要に応じてこまめに連絡をとるなどして保護者との連携に努める。	●保護者が我が子を安心して学校に通わせている。	●保護者対象アンケートの結果 →肯定的な回答が90%以上	保7No.7  保7No.8  保7No.9	83% (88%) 80% (82%) 90% (93%)	◆一人一人が教職員としての資質向上に努め、保護者への丁寧な対応を心掛けている。今後も保護者の方々と連携して、生徒の育成に当たりたい。 ◆人権感覚の高揚についての項目では、昨年度よりも2%低い結果となった。今後も年間を通し、教職員の人権感覚を磨き、人権意識の高揚を図れるようにしていきたい。	
家庭・地域・小中学校との連携	①開かれた学校づくりの推進	●保護者や地域住民等に対して、各種たよりや学校Webサイト等を通して、学校の様子を積極的に情報発信をする。	●保護者が学校教育活動に関心と理解を示している。	●学校Webサイトの更新状況 →毎日記事を掲載  ●保護者対象アンケートの結果 →肯定的な回答が90%以上	更新状況(12月末時点)  保7No.10	745件 (794件)  94% (95%)	◆今年度も学校Webを毎日更新できた。また、2学期からは「各種たより」をさくら連絡網で配信できた。今後はプリントと連絡網のどちらが有効か配布物により見極めることが課題である。 ◆運動会、北星祭、保護者会等では人数制限等緩和して多くの保護者の皆様に御覧いただくことができた。今後も内容等工夫を重ね、より良い教育活動となるようにしていきたい。 ◆今年度も、学校給食センターや子ども食堂等に、大根や里芋等の野菜を提供し、地域とつながりをもつことができた。今後さらに三彘唐沢SSCと連携し、効果のある活動にしていきたい。	◆北中では何種類もの野菜を栽培し給食センターや子ども食堂に寄付している。「北中産の大根」などと紹介しながら作る側だけでなく、いただく方もありがたみを感じる。 ◆三彘唐沢SSCについては、年度当初に教職員と交流をもったり保護者へ通知したりして、その活動を広く周知することがその後の活用につながると思う。今後地域と連携して、朝食を用意する活動などもしていきたい。 ◆ノーメディアデーについては、現在では携帯電話やスマートフォンなしでは子どもたちの学習が成り立たない部分が出てきている。「その情報が正しいか」を見極める目をもち、情報機器を学習で正しく活用してほしい。
	②小中一貫教育の推進	●小中一貫教育佐野北推進ブロックの各部会で定めた取組を実施する。	●小学校から中学校への円滑な接続が図られ、系統性のある学習指導と生徒指導が展開されている。	●ノーメディアデーを 実践した生徒の割合 →肯定的な回答が80%以上	実践生徒	79% (76%)	◆「小中交流見学」で6年生児童のみなさんに、本校の授業や部活動の様子を見ていただいた。中学校生活への不安軽減、期待増につなげたと思う。 ◆ノーメディアデーについては、在り方について小学校と連携し協議していく必要があると感じる。	